

## 令和2年度 第3回 忠別川における河道の質的整備に向けた検討ワーキンググループ 議事要旨

- 日時：令和3年3月23日（火）10:00～12:00
- 場所：web 会議（旭川開発建設部旭川合同庁舎より発信）
- 出席者：

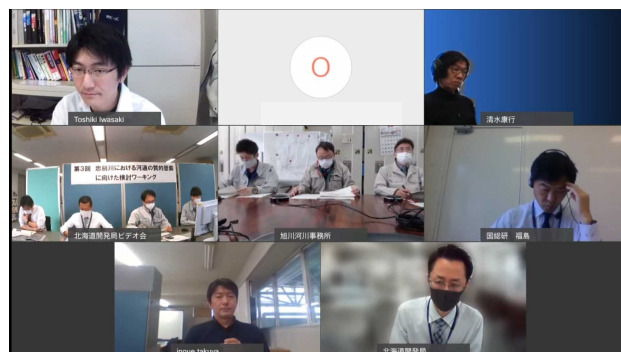
所 属 等	氏 名
国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 寒地河川チーム 主任研究員	井上 卓也
北海道大学大学院工学研究院 准教授	岩崎 理樹
北海道大学大学院工学研究院 教授	清水 康行
国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 室長	福島 雅紀

※五十音順、敬称略

### ■議題

- ・第2回 WG までの振り返りについて
- ・検討手法の見直しについて
- ・対策案検討およびモニタリング計画について
- ・概要版について

### ■ワーキンググループの様子



## 【議事要旨】

### ■ 第2回WGまでの振り返りについて

- 質疑なし

### ■ 検討手法の見直しについて

- 河岸侵食対策検討箇所抽出について、レーティングにおける各要素の重みづけの検証を今後行って行くといい。また、河川毎、区間毎に選定すべき要素の種類や重みづけが異なることに留意すること。
- 他河川への展開を考慮するとレーティング内の洪水的要素は、「河岸侵食危険箇所を簡易的に抽出する」という狙いから、危険箇所抽出までは数値計算を行わず、危険箇所抽出後に数値計算を行う手法の方が良い。
- 河岸侵食危険箇所を簡易的に抽出するには、ハイドログラフをベースとするような簡易的な算出方法が良い。

### ■ 対策案検討およびモニタリング計画について

- 巨石型根固め内の間詰土砂が流出する可能性も考慮し、人為的に土砂を供給する方法について検討しておいた方が良い。
- 巨石型根固めにおける効果の判断方法、効果が無い場合の対応方法を検討しておくといい。
- 全川のモニタリング結果に基づき、都度優先度は変わっていくことが想定されるので、柔軟に検討していくのが良い。
- 対策区間内の未施工区間や滲筋が河岸に接近している箇所については、特に注意してモニタリングを行う必要がある。
- サケの産卵適地については、水深と河床材料だけではなく、水温や伏流水等の複数の要素が関係していると考えられる。これらの評価手法については、地域の環境保護団体と協議を行いながら検討を進めると良い。
- 対策実施状況、施工区間と未施工区間の出水時の状況を考慮して、問題ないようであれば、樹林化抑制のためのフラッシュ放流を検討すると良い。

### ■ 概要版について

- 事業実施に関する概要版については、一般の方々にも広く認知していただけるように、表現方法に留意して作成すると良い。